

連携大学院方式について

「連携大学院方式」とは、従来の研究分野を超えた新しい学問領域が開拓され、学際的学問分野の研究が推進されるようになった時代を背景に、国公立大学が独立行政法人や民間の研究所等と連携して、それぞれの施設・設備や人的資源を活用しながら、研究領域の拡大と多様化を図ることを目的に行われている教育研究活動の一つです。

本学では、平成13年度からこの方式を採用し、本学大学院生が所属専攻内の活動のみならず、連携協定を締結した外部研究機関のもとで、高度に専門化された領域や学際的な研究課題に取り組むことのできる環境を整えています。

具体的には、連携先研究機関の研究者を本学の客員教員（客員教授・客員准教授）として迎えることにより、その指導のもと、大学院生は連携先研究所等の先端的な環境下で研究指導や論文指導を受ける、あるいは、それら客員教員による特別講義等を大学内で受講することができます。



◎連携大学院方式により教育研究協力が行われる研究所

- ・ 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
- ・ 一般財団法人 進化生物学研究所
- ・ 国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター
- ・ 公益財団法人 山階鳥類研究所
- ・ 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
- ・ 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
- ・ 国立研究開発法人 国立がん研究センター
- ・ 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター